

第17回 奥むさし駅伝競走大会

【出場結果】

実施日 : 1月27日(日)

コース : 東飯能駅西口前～西吾野駅前折返し～飯能市内銀座通り(きもの処かきめま前)

総距離 : 6区間 38.6km チーム成績 : 1時間59分46秒 8/140位

出場者・リザルト	:	1区	親崎 達朗	9/140位	30分13秒
		2区	平塚 祐三	13/140位	18分00秒
		3区	松本 流星	25/140位	14分34秒
		4区	小原 大輔	8/140位	13分35秒
		5区	加藤 平	2/140位	14分51秒
		6区	石原 洸	8/140位	28分33秒

【レポート】

当日は朝から気持ち良い晴天で絶好の駅伝日和となり、高校一般併せて207チームが一斉にスタートしました。

当社チームは、今季全てのレースで結果を残している親崎を自信を持って起用し、レースは駿河台大学の外人選手が一人飛び出して進む中、親崎は確実に第2集団で粘りの走りを披露、ラスト1kmからのラストスパート合戦では第2集団から数秒離されたものの、重要な1区スターターとしての役割はしっかりと果たし、区間9位で2区の平塚にタスキを渡しました。

2区を任された平塚は東日本実業団駅伝後、体調不良も重なりレースからは遠ざかっていましたが、現状持てる力を出し切って3つ順位を上げ、3区の松本へ。

3区は登りに強さを発揮する松本を起用し、入りの1kmを3分を切るペースで順調に走り出したかに見えましたが、それ以降は脚が完全に止まってしまい、5人に抜かれて4区の小原へ。

4区の小原は、今期ロードレースでなかなか結果が残せない中でしたが、下り基調のコースを淡々と走り切り、1つ順位を上げて全体10位で5区の加藤へタスキを渡しました。

5区の加藤は、暫く故障でレースから遠ざかっていましたが、約1年半のブランクを感じさせない勢いのある走りで前半から突っ込むと、後半も快走を披露し、2つ順位を上げ、全体8位でアンカーの石原へ。

アンカーを務める石原は、直前までマラソン練習を重ねる中で、脚の重さと踵の違和感を訴え、万全では無かったものの、走り始めれば、そこは過去に何度も走り慣れているコースでレースを冷静に進め、順位を落とすことなく全体8位でゴールしました。

ShinDengen /



1区 親崎



2区 平塚



3区 松本

ShinDengen /



4区 小原



5区 加藤



6区 石原

【総括】

今回、久々に1区から先頭集団で走り始める良いスタートを切ることが出来ましたが、前半区間でレースの波に乗ることが出来ずに徐々に先頭から離され、後半3区間に巻き返しを狙いましたが、前半の遅れが響いて先頭争いには加われませんでした。

今大会は地元レースということもあり、今年も寒い中を沿道より大勢の皆様に応援頂きましたが、最低限のノルマと考えていた入賞を何とか達成するに留まり、今年も万全な状態を作れなかった結果をチーム一同真摯に受け止めております。

近年、奥むさし駅伝は有力実業団チームや箱根駅伝に出場した大学選手の出場が増え、年々レベルが上がっておりますので入賞さえもなかなか叶いませんが、今年の悔しさを胸に来年は先頭争いに加われるよう、また一から地道に取り組んで参ります。

なお、奥むさし駅伝に続き、来週2月3日(日)には埼玉県駅伝が開催され、これをもって今年度の駅伝シーズンも締めくくりとなりますので、好調を維持している親崎や長期故障から復帰した加藤を中心に、シーズンを良い形で締めくくれるよう、今回のレース結果を活かして準備して参ります。

最後になりますが、本年も早朝から沿道に駆け付けていただき、ご声援を頂きました、鈴木社長、堀口工場長をはじめとする役員の皆様、会社関係者の皆様、本大会の役員としてご尽力いただいた会社関係者の皆様に、あらためましてチーム一同、御礼申し上げます。



今後も一丸となって、精一杯活動して参りますので、引続きまして、ご声援賜りますよう宜しくお願い致します。有難う御座いました。

以上